

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第44週 (10月30日～11月5日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	206	12801
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢		35
腸管出血性大腸菌感染症	112	3344
腸チフス	1	35
パラチフス		8
[4類]		
E型肝炎	1	460
A型肝炎		47
エキノкокクス症		12
エムボックス ¹⁾		209
オウム病		8
回帰熱		21
コクシジオイデス症		2
ジカウイルス感染症		1
重症熱性血小板減少症候群		128
チクングニア熱	1	7
つつが虫病	9	137
デング熱	7	138
日本紅斑熱	18	474
日本脳炎		4
ブルセラ症		2
マラリア		25
ライム病		29
レジオネラ症	28	1944
レプトスピラ症	5	45
[5類]		
アメーバ赤痢	4	414
ウイルス性肝炎 ²⁾		204
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	35	1750
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		50
急性脳炎 ⁵⁾	13	495
クリプトスポリジウム症	1	11
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	133
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	711
後天性免疫不全症候群	8	786
ジアルジア症		35
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	466
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	15
侵襲性肺炎球菌感染症	28	1477
水痘(入院例に限る)	7	318
梅毒	166	12679
播種性クリプトкокクス症	3	147
破傷風	2	92
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	4	105
百日咳	19	828
風しん		11
麻疹		25
薬剤耐性アシネトバクター感染症		13

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	104359	21.13
新型コロナウイルス感染症	12065	2.44
RSウイルス感染症	193	0.06
咽頭結膜熱	7718	2.45
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9568	3.04
感染性胃腸炎	9823	3.12
水痘	320	0.10
手足口病	2298	0.73
伝染性紅斑	30	0.01
突発性発しん	664	0.21
ヘルパンギーナ	367	0.12
流行性耳下腺炎	106	0.03
急性出血性結膜炎	8	0.01
流行性角結膜炎	564	0.81
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	11	0.02
無菌性髄膜炎	9	0.02
マイコプラズマ肺炎	28	0.06
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
インフルエンザ(入院患者)	647	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1074	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	山梨、埼玉、愛知
新型コロナウイルス感染症	▼	北海道、長野、山梨
RSウイルス感染症	▼	山形、北海道、富山
咽頭結膜熱	▲	福岡、奈良、佐賀
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	宮崎、鳥取、福岡
感染性胃腸炎	▼	大分、香川、福井
手足口病	▼	新潟、福井、宮崎
伝染性紅斑	▼	青森、愛媛、山形、福井、山梨
ヘルパンギーナ	▼	山形、香川、高知
流行性耳下腺炎	▼	佐賀、奈良、広島
マイコプラズマ肺炎	▲	愛媛、沖縄、大分

◆ジフテリア (ギニア共和国)

7月4日～10月13日までに、ギニア共和国で18人の確定例を含む538人のジフテリア症例が報告された。確定例13人を含む58人が死亡し、461人の接触者が追跡調査を受けている。1～4歳が445例と最も多く、82%を占めている。538例のうち、ワクチン接種を受けた人はいなかった。